



Vol. 532 平成31年2月

NEWS



NPO 法人 横浜発明振興会

今月の行事

第603回 ハマ発明教室

と き 平成31年2月 10日 (日)
PM 1:00~4:30

ところ なか区民活動センター 研修室
横浜市中区日本大通 35 中区役所別館

1. アイデア作品の発表とディスカッション
2. 発明研究会
「クラウドファンディングの事例研究」
3. おしらせ、その他

※今月は、弁理士の先生による発明相談があります。

3月のハマ発明教室 予告

と き 平成31年3月10日 (日)
PM 1:00~4:30

ところ なか区民活動センター 研修室
横浜市中区日本大通 35 中区役所別館

1. アイデア作品の発表とディスカッション
2. 発明研究会 テーマ未定
3. おしらせ、その他

知財侵害で立ち入り調査 政府、特許法改正へ

政府は、知的財産を巡る企業間の争いを解決するための訴訟制度を見直す。特許権侵害の疑いがある企業に対し、裁判所が立ち入り調査を行えるようにするなど証拠収集の権限を強化し、侵害された企業への損害賠償額を引き上げるよう、計算方法を変える。中小企業やベンチャーを含めた産業界全体の知財保護につなげる狙いがある。

特許庁が28日招集の通常国会に関連規定を盛り込んだ特許法改正案を提出する方針だ。

企業間で特許侵害を巡る訴訟が起きた場合、裁判所が指定した弁護士や弁理士など中立的な専門家が、侵害企業の工場やオフィスに立ち入り、必要な資料を収集できるようにする。実際に生産ラインを動かしながら検査を行うことも可能になる。営業秘密の保護に配慮し、一定の要件を満たすことが前提となる。

現状では、裁判官が被告側に証拠文書の提出を命じることはできるが、強制的に証拠を集めることはできない。このため侵害の裏づけが取りにくく、証拠収集の権限強化が課題だった。

損害賠償額については、侵害企業にライセンスを与えたとみなして計算した金額を賠償額に加えられるように見直す。これまで、原告側の製造・販売能力を超えて製品が売られた場合、その分は賠償の対象に含まれなかった。

見直して、技術はあるが販売力の乏しい中小やベンチャーが特許を侵害された場合、より高い損害賠償を求めることが可能になる。

特許侵害は物理的にモノを盗む必要がない上、証拠が侵害者側にある場合が多く、被害企業が泣き寝入りする事例が後を絶たなかった。米国や欧州では強制力のある査察などで証拠収集の権限を強めているほか、近年は中国や韓国も特許侵害に対する損害賠償の引き上げに乗り出している。

(読売新聞1月25日)

=====も く じ=====

研究会・講演の案内 2

ハマ発明教室報告 2, 3

情報提供、お知らせ、..... 1, 3, 4

○2月のハマ発明教室のご案内

- 第一部 作品発表とディスカッション
- 第二部 発明研究会

「クラウドファンディングの事例研究」クラウドファンディングについて解説のあと、出席者全員で話し合いをします。成功事例として、鈴木会員の「幸せの黄色いたすき」を取り上げます。

今月は顧問の弁理士による発明相談が受けられます。2月のご担当、松永先生。

第602回ハマ発明教室(日曜発明教室)報告

2月13日、第一部は、なか区民活動センター研修室で賀詞交換を、第二部はセルテ5階の居酒屋「なごや香」にて、新年懇親会を行ないました。

出席者 第一部 21名、第二部 22名。

第一部 賀詞交換会

今年も発明学会の中本会長にご列席いただき、「発明ライフ」1・2月号を出席者全員にプレゼントしていただきました。

参加者全員に各自の今年の抱負を話していただきました。



ビジターで参加された、木村様が飛び入りで、考案中のLEDを光源とした間接照明を披露していただきました。発明教室で作品発表して下さるようお願いしました。



第二部 新年懇親会



中本様が草笛を、桑井理事がハモニカを演奏して宴会を盛り上げてくださいました。



○新入会員紹介

木村壮太様（東京都世田谷区）

○89歳夫婦、発明で喧嘩減る 妻は補聴器、夫は安眠装置

89歳の「発明家」夫婦が長崎市にいる。妻は自分にあつた「補聴器」を、睡眠不足の夫は「安眠装置」を作り、長崎県発明協会のコンテストで入賞。おかげで、夫婦げんかが減つたという。

松本幸子(さちこ)さんと晃さん。晃さんは旧制中学3年のころ、学徒動員で潜水艦の建設で使う工具の修理をしたことから機械に興味を持った。テレビ局の技術者になってからも趣味で発明を続け、これまで50以上の賞を受賞したという。

幸子さんは晃さんの表彰式についていくうち、引き込まれた。日常生活でちょっとした不便さを感じると晃さんに相談し、30年ほど前から晃さんの助けを借りながら「発明」をしている。

県発明協会が主催する今年度の「県発明くふう展」で、幸子さんの「対話補聴器」が最優秀賞を受賞。送信機がついたマイクを相手の胸元にクリップでとめ、音声が無線で自分のイヤホンに届く仕組みだ。きっかけは半年前。晃さんとの会話が聞こえにくくなった。普通の補聴器をつけたが、水道管を流れる水や外を走るバイクの音がやけにうるさく聞こえた。相手の声だけがよく届く補聴器の「開発」に乗り出した。

晃さんは「安眠装置」で優良賞を受け、21日に長崎県大村市であつた表彰式に、2人で参加した。

趣味の発明に熱中するあまり、深夜に眠りに就くことも多く、医師から「普通の生活を」と助言された晃さん。安眠装置は左右二つのスピーカーから雨音などの効果音と静かなメロディーがそれぞれ流れ、眠気を誘う。尿漏れを検知するセンサーもついている。最近では睡眠時間が増え、「気持ちが落ち着いて夫婦げんかが減りました」と話す。一方、幸子さんが作った補聴器は、2人のコミュニケーションを円滑にした。「私も言いたいことがちゃんと言えるようになったからね。本当に怒ったら、聞こえないふりするけど」

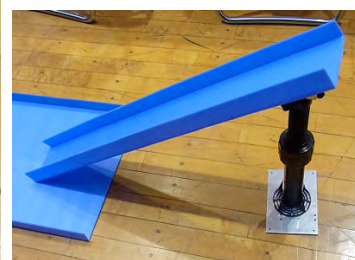
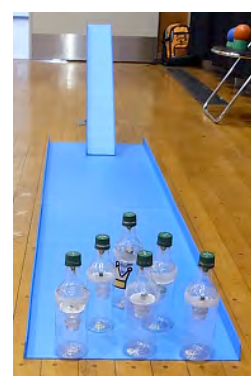
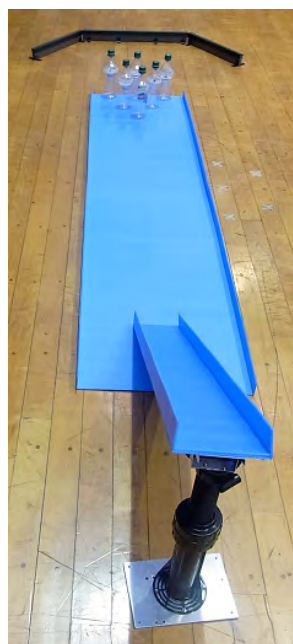
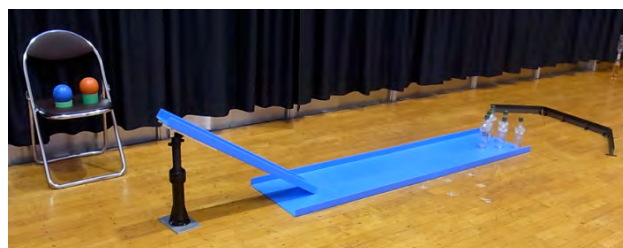
来年、そろって90歳になる2人。「こがんとがあつたらいいね、っていうものを、まだまだ作っていきたい」。そう口をそろえた。

(朝日新聞デジタル版 12月24日)

○横須賀市立養護学校の授業参加報告

1月18日、神奈川県環境学習リーダー会に所属されている会員の石井さんが同校からの要望で、昨年に続き、金城顧問発明考案のフロアカーリングと、ボーリング遊びの2種目他6種目計8種目のイベントを行ない、小中学生40名の生徒さんを楽しんでもらいました。

昨年のボーリング遊びには、再セットアップがしやすいひも付きペットボトルを採用しましたが、フロアカーリングのスライダーとプッシャーでは、ピンが飛び散る爽快さに欠けていることに気がつき、今年はピン実装LED点滅を赤緑交互点灯、ヘッドピンには転倒時にメロディーが鳴る工夫とφ100mmのゴム製リフティングボールを使用しました。また、車椅子でも投球が出来るようスロープ式にし、方向、傾斜が調整できるものにしました。当日は、ストライクの爽快さを堪能してもらい、生徒さんや職員の方々、皆、面白さで盛り上がりました。



○イベント情報

- ・日本を変えた千の技術博
国立科学博物館（東京・上野公園）
3月3日（日）まで開催中
（2月12日、18日、25日は休館）
9時～17時（金・土は20時まで）
入場料 1600円
- ・第87回 東京インターナショナル・ギフト・ショー 春2019
2月12日（火）～15日（金）10時～18時
無料（要登録）
- ・第52回 なるほど展

初恋スリッパ まとまる通院ポーチ プチポアン ラクダネ
 ボンボンネット フリルスカーフ アカンペー ストッピー
 スマイルオープナー 粉まぜらー ハロ-愛ホン カイロボシット
 おくすりポップ いつでもポ-ル! ひ-ずスルー パジャマル
 お手伝いできるモン 楽書き 着脱簡単椅子カバー おちばとり
 めがみそ鉄しゃもじ 茶々フック ガーデンリング 魔法の手
 アイ&フェイスマスク クレーブシフター 水切りリング スタイ
 ベットボトル開けるくん かんたん茶こし ナブキンストッパー
 調味料の指定席 おかず倍増計画 その他多数 (いずれも予定)

○イノベーターつながる場

横浜市 新たな産学交流活動

横浜市は市内企業や大学などが連携し、イノベーション創出を目指す「ヨコハマ・イノベーターズ・コミュニティ（仮称）」の活動をスタートした。3月までにイノベーターズミーティングを開き、運営方針を議論し、コンセプトを固める。

ヨコハマ・イノベーターズ・コミュニティは、人材の交流や学びのほか、ビジネス創出、成長の場づくりを進めることが目的。会議体を持つ組織だった活動ではなく、緩やかなつながりを保つ交流の場にしたいとの意見もあり、ベンチャーをはじめ企業や大学、研究機関などが活動しやすい場になりそうだ。

キャッチコピーやロゴの作成を検討するほか、4月以降にウェブサイトを立ち上げ、参加者をバーチャル空間でつなぐ交流の場づくりを始める。

横浜市はコミュニティー立ち上げにあたり、キックオフイベント「横浜イノベーターまつり in 関内」を開いた。

林文子市長が「新たな挑戦がスタートする。ネットワークを広げ次世代を担い世界を羽ばたくイノベーターを生み出していこう」と参加者を前にイノベーション都市を宣言した。

（日刊工業新聞1月11日）

○事務局だより

本紙への掲載原稿を募集します。発明に関して日頃お考えのこと、近況報告、耳より情報、教室で発表された作品へのご意見や会へのご要望等、なんでも結構です。ご寄稿をお待ちしています。

・事務局担当

曜日	担当者	曜日	担当者
月	()	木	()
火	山岸 隆	金	()
水	石井 栄	土	小峰 一男

来訪の時は、電話にて駐在確認をお願いします。FAXまたはメールも ご利用ください。

事務所 TEL/FAX： 045-664-9070



NPO 法人 横浜発明振興会

〒231-0016 横浜市中区真砂町3-33 セルテ11階
 よこはま市民共同オフィス内
 TEL/FAX 045-664-9070